

(別紙様式1)

### 平成 26 年度学校評価実施計画

学校名 大分大学教育福祉科学部附属特別支援学校

前年度評価結果の概要	<p>①安全管理に対する意識が高まってきたものの、情報の共有が不十分ときがある。学校安全計画の活用などをおこない、教師の安全に対する意識のさらなる改善が望まれる。</p> <p>②ケース会議を行っている児童生徒数が少ない。個別的教育支援計画にかかる面談を整理し、施設等との協同した取り組みをすすめ、会議結果を反映した指導を行う必要がある。</p> <p>③児童生徒の指導について、保護者・評議員ともにおおむね良いとの評価を受けた。授業公開の取り組みだけでは、指導力の向上を図るためには不十分であり、附属の教員としての課題の整理と具体的な取り組みが必要である。</p> <p>④児童生徒たちの自主的で自立的な活動の成果が表れており、以前に比べ子どもたちの声が聞こえる学校になったと評価を受けた。</p> <p>⑤進路指導部を中心とした取り組みに対し、大きな改善がみられたものの、学校全体としてキャリア教育のさらなる推進が必要とされた。</p>
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
個人の尊厳を重んじ、児童生徒一人一人の心身の発達に応じて、小学部、中学部並びに高等部の各課程を通して、調和のある一貫した教育を行い、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、身近生活の確立をはじめ、集団生活、社会生活、職業生活への適応性を高め、自立的、主体的な生活ができる人間の育成をめざす。	<p>1 安全・危機管理意識の重要性を日常的に意識すること。校舎改修に関わる環境変化への対応</p> <p>2 地域へ貢献できる魅力ある研究への取り組み</p> <p>3 確かな指導を基本にした教材等の開発についての情報発信</p> <p>4 小・中学部・高等部の一貫した自立・社会参加に向けての指導の充実(キャリア教育の視点から)</p> <p>5 特別支援教育のセンター的機能の充実(合理的配慮の視点から)</p>	<p>1 学校安全計画を活用し、安全・危機管理意識のさらなる徹底と危機・災害に強い学校体制の充実を図る</p> <p>2 児童生徒理解と一人一人の教育的ニーズを基にしたどの子にもわかりやすい授業づくりを行う</p> <p>3 学校課題解決・目標達成のために職員一人一人が自らの役割と責任を自覚し組織的に取り組む</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1 学校安全計画を活用し、安全・危機管理意識のさらなる徹底と危機・災害に強い学校体制の充実を図る	○安全に配慮した学習環境が整えられており、子どもたちが落ち着いて行動している	○毎朝、すべての教員が出席している児童生徒と教師の人数を確認し、危機がおきたとき、どのように対処するかシミュレーションする	○すべての教員が、朝5分程度その日の活動を想定し、場面設定や行動を確認し、安全な学習環境を整えるとともに、緊急時における冷静な判断と対応ができるよう備える	PL:学部主事 SL:学級担任
	○校舎改修に伴う工事が、児童生徒の動線や安全に配慮したものとなっている	○安全点検時にあわせて、学校安全計画にそって指導が行われているか確認する。また養護教諭による安全指導も定期的実施する	○毎月、学部ごと分掌ごとに学校安全計画の実施状況や次月の取り組みを確認し、学校全体の取り組みが計画的に行われるよう連絡調整する	PL:教務主任、保健安全主任 SL:分掌主任、学部主事、学級担任
	○非常時や災害時への対応の準備が行われ、教員一人一人が高い意識を持ち、臨機応変な対応ができる	○校舎改修工事期間における安全・安心な学校づくりのため、学習環境の改善、騒音や粉じんの管理を徹底する	○工事前に工程表をもとに業者と工事内容の確認し、騒音や粉じんの管理を徹底するとともに、工事期間中には毎週現場監督者と連携を取り、教員および児童生徒に情報提供を行い、安心して学習できる環境を整える	PL:教務主任 SL:学部主事、学級担任
2 児童生徒理解と一人一人の教育的ニーズを基にしたどの子にもわかりやすい授業づくりを行う	○すべての児童生徒を対象にしたケース会議等が定期的実施され、児童生徒の教育的ニーズについて、保護者や関係者と共有しており、指導に活用されている	○ケース会議や面談の整理を行い、効率的で効果的な会議を実施するとともに会議結果を指導に反映させる	○一人一人の児童生徒に対し、定期的に会議が実施され、保護者・学校・関係機関とが同じ課題に向けた取り組みを行うとともに評価と改善を繰り返す行う	PL:生徒指導主事 SL:学部主事、学級担任
	○研究における授業力向上の取り組みにおいて授業改善の具体的な観点を整理し、改善に取り組むことができる	○合理的配慮の具体的な取り組みを行い積極的に他校の研究会に参加し、情報収集、情報発信に努める。合わせて一人一実践をととして学校全体の授業力を向上させる	○研究における授業力向上の取り組みにおいて授業改善の具体的な内容を明確にし改善を行う ○合理的配慮について、学校全体で共通の認識を持ち個に応じた具体的な取り組みを行う	PL:研究主任 SL:学部主事、研究部
	○児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導がなされている	○自立活動における改善の課題が残っており、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成を計画的に行う必要がある	○年度当初から教務主任、研究主任、学部主事を中心に自立活動検討委員会を実施し、計画的に改善に取り組み、11月までに自立活動の教育課程の改善を終える	PL:教務主任 SL:自立活動検討委員
3 学校課題解決・目標達成のために職員一人一人が自らの役割と責任を自覚し組織的に取り組む	○児童生徒が積極的にあいさつしている、自信を持って発言している、集団の中で役割を果たしている、人のために役に立っていると感じている	○自主的、実践的な活動が、児童生徒会役員から全校の児童生徒に広がるよう集会活動及び学校行事の企画・運営を行う	○生徒会役員の取り組みから全員の児童生徒への取り組みとなるよう学級会活動やホームルール活動、自立活動などの時間を活用し、児童生徒がより積極的に学習する姿になる	PL:特別活動主任 SL:学級担任
	○各学部でキャリア教育全体計画を活用した組織的な取り組みが行われ、仕事や将来にあこがれを持ち、働く生活に期待している	○改善したキャリア教育全体計画の活用の仕方について再度検討し、具体的な指導とその効果を整理し、個別的教育支援計画とのつながりを明確にして評価する	○キャリア教育全体計画を活用し、各学部・学年における指導内容を確認し、具体的な指導を行い、成果を確かめ、個別的教育支援計画の内容と関連付けながら、将来の仕事や夢にあこがれを持つよう働きかける ○進路だより、メール配信、HPを活用した情報発信を強力に進めるとともに、保護者のニーズに応じたより質の高い情報提供を行う	PL:進路指導主事 SL:教務主任、生徒指導主事
	○教師一人一人が自分の課題を明確に意識し、適正な指導を受けながら計画的に専門性の向上を目指した取り組みを行っている	○教員一人一人が自らの課題を意識し、指導力向上をめざした授業研究・授業実践を積極的に行うとともに、実習生指導を効果的で効率的に行う ○HPの刷新を行い、新たに「学部のページ」「研究のページ」「進路のページ」「PTAのページ」を作成し、情報発信をよりすすめる	○能力向上計画から得られた個々の課題を解決するため、一人一実践をととして、附属学校の教員として必要な力が身につくとともに自らの課題解決の方向を知り、計画的に取り組むを行う ○新たに作成するページについて、レイアウトやコンテンツなど掲載する内容を検討し、学校内外の人にとって有益な情報となるよう作成後も更新をすすめる	PL:研究主任 SL:学部主事、教育実習主任